

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐県庁前
電話 2-9772

知夫村の取組紹介

そう捉えたんだねえ

教員の指導力向上に携わる指導主事として、私が肝に銘じていることの一つに次の体験があります。

AさんはB小学校の一年生。いつもニコニコ明らかなで算数大好きです。でも時々計算ミスもしがちです。ある日の放課後、Aさんの算数プリントを丸付けていた時のことです。

「5+3=8正解。9+4=12ありやうや間違い。8+6=13残念これも違ってるなあ。」私は一緒に復習をしようとAさんを教卓の横に呼んでみました。

「Aさん、9+4はどんなふうに数えたのかなあ、教えて。」「うん、いいよ。9に4をたすんでしょ。」と指を9本折ってから笑顔で次のように唱え始めました。

に、先入観を持たず丁寧に慎重にすり合わせを行っていくことが良き「解説者・助言者」として求められる姿と考えています。

安心・安全 放課後見守り支援

知夫小中学校の教職員集団は、若手・中堅・ベテランと年齢構成もよく、そしてすべての業務に対して皆さんとても前向きで、協力的で、熱心です。児童生徒数は少ないですが、その少なさの良さを生かして、ペア活動・集団活動を充実させたり、機動性を生かして村内の各機関と上手に連携を取ったり様々な場で学習を行ったりと工夫をしています。今年もあるベテラン先生の「図書館と教室の有効的な活用方法」「教室を前後に分けてノート記入場所と実験場所分離指導方法」など知夫村ならではのとてもダイナミックな良い取組が多数見られました。

指導主事として、その素晴らしい取組をしつかりと意味づけをして教員の意欲の継続向上を図るとともに、他の先生方へこの高い指導技術の周知を図れるように心がけて訪問通信を発行したり、言葉がけを行ったりしています。

子供たちの教育という尊い活動に携われる喜びを、日々感じながら業務に取り組んでいます。

（塚本潔）

も存在しません。そこで令和3年度から放課後の図書館を利用し、見守り支援をスタートさせました。

はじめは、週に三日、家に帰る代わりに図書館にやってきて自由に本を読んだり、校庭で遊んだりして過ごすことができるというものでした。利用児童も数人だったため、それほど問題もなく運営されていきました。しかし、徐々に利用児童が増え、自由におく他の図書館利用者さんに迷惑がかかるのではないかと、大人の目が行き届かず児童が危険な目に合うのではないかと懸念されるようになりました。そこで、見守りの形態を変えることで安全を第一に考えて実施することになりました。

まず、内容を変更し、宿題をする時間や体験活動をする時間を設定するなど放課後子ども教室の要素を取り入れることにしました。人員についても教育委員会と村民福祉課が協力し、見守りに付く職員を増やしました。また、場所も図書館から小中学校の空き教室に移動し、子供たちがのびのびと活動できるようにしました。

このように他の市町村と同じようにはいきませんが、知夫村の子供たちが安心・安全に

過ごせる場所と、その中で楽しみながら学べる体験を知夫村の方法で提供していきます。

（池田恒祐）

LDのある子どもの 多様な学び推進事業

近年、市町村教育委員会は、LD傾向のある児童生徒への指導支援のあり方や取組を課題として取り上げています。特別支援教育課は、その対策として「多様な学び推進アドバイザー（大学教授など）」を委嘱し、指導主事を対象としたLD支援の研修を進めています。

さらに今年度、5つの市町（安来市、出雲市、飯南町、大田市、益田市）を指定し、支援のための体制づくりへの助言を進めています。

隠岐圏域においても、町村においてひらがな読みのアセスメントを学校の協力のもとに取り組み、実態の把握と支援のあり方について協議を進めています。学習の基底となる読み書きに困り感のある児童生徒を支援することは喫緊の課題であり、県の施策と連動することとで解消を図りたいと思います。

（奥谷雅也）

